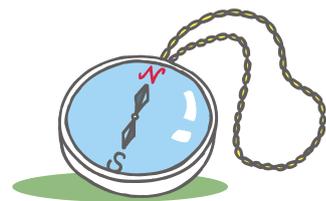


羅 針 盤



第 **33** 号 令和4年（2022年）2月28日（月）

◆ 自分と向き合うことから逃げない

生徒の皆さんは、年末によく実施される格闘技イベント“K-1”の現役のファイターであり、競技統括プロデューサーでもある角田信朗（かくだのぶあき）さんをご存知でしょうか。彼は、タレントや俳優としても人気が高く、マルチな才能を發揮している人物です。正道会館空手最高師範（6段）である角田さん、実は意外にも小さい頃はいじめられっ子だったそうで、強くなりたいという一心から柔道を始め、高校2年生の時に極真空手入門、それから彼自身の空手人生がスタートしたそうです。彼が入門した道場で、正道会館を立ち上げ館長となり“K-1”の生みの親となる石井和義さんと出会うこととなります。石井さんとともに角田さんは「空手」という競技をメジャーとするために尽力されて、多くのスポンサーを巻き込んでいく活動をされていくこととなります。活動するとは言っても並大抵のことでスポンサーが簡単についてくれることも無く、7年近くもの間の低迷時代を向かえることとなります。そんな中、好機となった試合でも大敗することとなり、やりたくないという理由で避けていた苦手な練習を自分に課することから、彼自身の再スタートが始まっ



たと言います。自分の弱さを克服することで、心・技・体の和合をめざし、再戦では完璧なKO勝ちを手にしました。人間は無意識のうちに、嫌なこと、苦手なこと、辛いことから逃げ、後悔してしまうと、彼は言います。簡単なことではないけれど、自分の弱さと向き合って、そこから逃げずに戦うことが何よりも大切なことであると語っています。誰か他の人のせいや、何かのせいにしている時は、人は進歩することがない。それよりも、向き合うべき自分自身を見つけ出し、目標を持って継続することが全てであるという言葉からは、学ぶべきことがたくさんあると思います。

◆ 良い結果を得るために

世界的な名作童話として知られている『ロビンソン漂流記』は、たくさんのおもちゃを夢中にさせてきた冒険譚ですが、童話では余り強調されていない部分があるそうです。無人島に流れ着いた船乗りであったロビンソン・クルーソーは、28年間にも及び自給自足の生活を強いられることとなります。この作品の作者であるダニエル・デフォーは、「これほどみじめな境遇の中にも、神に感謝したくなるような良いことがある。良いことと悪いことの表をつくってみると、必ず良いことの欄に書き込めることがある」と記しています。今年の1年も、2月末日となりました。この2か月をどのように過ごし、どれだけ良い出来事があったでしょう。昨年は、今年の漢字として『金』が選ばれ、オリンピックやパラリンピックで活躍した選手が手にした金メダルだけでなく、次世代を担っていく若者が夢を追い続けた結果として金字塔を打ち立てていったことも記憶に新しいことです。しかし、その結果を得るためには、夢を追う強い気持ちと弛まぬ努力があったことを忘れてはいけません。